

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間の尊厳と自立		介護福祉科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山崎 敏 (実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う</li> <li>・人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける</li> <li>・対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援について知識を身につける</li> <li>・介護実践に必要な知識と支える強要を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
①人間の尊厳と自立では、介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的な理解ができる ②福祉理念の歴史的変遷を学ぶことを通し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を理解できる ③本人主体の観点から自立の考え方、自立生活の理解を通しその生活を支える必要性を理解できる				
回	テーマ	内容		
1	人間の尊厳と人権・福祉理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳と利用者主体、利用者主体の実現</li> <li>・人権思想の歴史的展開と人権尊重</li> </ul>		
2	人間の尊厳と人権・福祉理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉理念の変遷</li> <li>・生命倫理</li> </ul>		
3	人間と人間関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係の中で自分と他者を理解</li> <li>・人間関係の形成に必要な自己覚知や自己開示について学ぶ</li> </ul>		
4	対人関係におけるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの特性や構造について学ぶ</li> <li>・人はどのように他者や集団とかかわりながら成長するのかを学ぶ</li> </ul>		
5	対人援助関係におけるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの特性や構造について学ぶ</li> <li>・援助者としてのコミュニケーションの基礎について</li> </ul>		
6	組織におけるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織における情報の流れを理解する</li> <li>・組織においてどのようなコミュニケーションがもたらされるか</li> </ul>		
7	介護実践におけるチームマネジメントの意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスと他のサービスとの相違点</li> <li>・介護実践にチームマネジメントが必要とされる背景を理解する</li> </ul>		
8	介護実践におけるチームマネジメントの意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスとしての特性を持つことを理解する</li> <li>・介護実践におけるチームマネジメントの基本となる考え方を理解する</li> </ul>		
9	組織の目標達成のためのチームマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の目標達成のためのチームマネジメント</li> </ul>		
10	組織の目標達成のためのチームマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連し合う3つのチームマネジメント</li> </ul>		
11	ケアを展開するためのチームマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアを展開するためのチームのあり方や機能について</li> </ul>		
12	ケアを展開するためのチームマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームでケアを展開するために必要な取り組みについて学ぶ</li> </ul>		
13	ケアを展開するためのチームマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの力を最大化するためのリーダーシップ、フォロワーシップについて学ぶ</li> </ul>		
14	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアに応じて求められる実践力、チームケアのために必要な実践力とは</li> </ul>		
15	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアに応じて求められる実践力、チームケアのために必要な実践力とは</li> </ul>		
16	学力評価	学力評価		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 1「人間の理解」 中央法規出版  *参考文献については、その都度提示 ・参考文献：総合ケアセンターサンビレッジ編 『「尊厳を支える」ケアをめざして』中央法規 福本博文著『リビング・ウィルと尊厳死』集英社		期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション基礎		介護福祉科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山崎 敏(実務経験有)

授業の概要

最近の学生に多い読解力不足は、あらゆる場面において文章の完成度の低さを露呈している。その状況に対して再度読み書きといった基本的な文章の書き方を復習しつつ、適切な報告書、記録の書き方を学び、コミュニケーションの基礎となる自己表現としての文章力を養う。

授業終了時の到達目標

・読解力をつける。 ・要点がまとめられるようになる。 ・作文ではなく、小論文が書けるようになる。  
 ・観察したことを記録、報告書としてまとめられる。

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションとは	講義・演習
2	学校のルールとマナー	講義・演習
3	自己開示	講義・演習
4	傾聴	講義・演習
5	介護におけるコミュニケーションとは	講義・演習
6	介護におけるコミュニケーションの対象	講義・演習
7	援助関係とコミュニケーション	講義・演習
8	報連相・・・報告	講義・演習
9	報連相・・・連絡	講義・演習
10	報連相・・・相談	講義・演習
11	言語、非言語、準言語コミュニケーション	講義・演習
12	目的別のコミュニケーション技術	講義・演習
13	集団におけるコミュニケーション技術	講義・演習
14	対人援助技術方	講義・演習
15	バイステックの7原則	講義・演習
16	学力評価	学力評価

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・参考文献：川村匡由著『改訂版 福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方』中央法規 小野田博一著『論理的に書く方法』PHP文庫	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会の理解 I		介護福祉科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	山崎 敏 (実務経験有)

授業の概要

介護実践に必要な知識という観点から、社会福祉の歴史や思想を理解し、社会保障制度・介護保険制度・障害者総合支援制度等の法と制度について学ぶ。変動する地域生活の課題に関する専門的な知識を習得し、介護実践に必要な教養と総合的な判断力・豊かな人間性を養う。

授業終了時の到達目標

- 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点・専門職としての基盤となる倫理観を養う
- 地域社会における生活（施設・在宅）とその支援について地域包括ケアの基礎的な知識を習得することができる
- 社会保障の制度・施策の基本的な考え方やしくみについて基礎的な知識を習得することができる
- 高齢者福祉・障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、基礎的な知識を習得することができる

回	テーマ	内容
1	社会と生活のしくみ①	講義 生活とは：生活を幅広くとらえる ライフステージ・家庭生活の機能
2	社会と生活のしくみ②	講義 生活とはたらき方： ライフスタイルの変化・少子高齢化・働き方改革 家族機能と役割：家族の定義・家族観・家族の変容
3	社会と生活のしくみ③	講義 社会・組織の機能と役割： 概念・ソーシャルネットワーク グループ支援・エンパワメント
4	社会と生活のしくみ④	講義 地域・地域社会と地域社会における生活支援 概念と変化 都市化・過疎化、自助・互助・共助・公助 ソーシャルサポート・福祉の考え方 フォーマルサービス・インフォーマルサポート
5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	講義 地域社会における生活支援：地域福祉の発展 理念と推進、地域組織化活動
6	地域共生社会の実現に向けた制度や施策②	講義 地域共生社会：社会的背景と理念 ソーシャルインクルージョン 地域共生社会の実現に向けた取り組み
7	地域共生社会の実現に向けた制度や施策③	講義 地域包括ケア：理念とケアシステム
8	地域共生社会と社会保障制度	講義 地域共生社会実現に向けた制度体系
9	学力評価	学力評価

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 2「社会の理解」 中央法規出版  *参考文献については、その都度提示	期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
在宅介護		介護福祉科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	布谷 陽子 (実務経験有)
授業の概要				
在宅介護の目的や役割、対象や介護の特徴、在宅介護に関連する制度やケアシステムなどを体系的に理解する				
授業終了時の到達目標				
これから在宅介護が目指すべきその人の生活を支える「在宅におけるケア」、具体的なイメージを持って実感し在宅介護の基本的な知識が習得できる				
回	テーマ	内容		
1	在宅介護の目的と変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・在宅介護の基本的理解</li> </ul>		
2	在宅介護の生活環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅で暮らす高齢者の住環境の留意点</li> </ul>		
3	超高齢社会における地域包括ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアの仕組みについて</li> </ul>		
4	訪問介護の役割と機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護について学ぶ</li> <li>・身体介護や生活援助</li> </ul>		
5	生活援助の基本的理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除の基本</li> <li>・汚れを落とすメカニズム</li> </ul>		
6	生活援助の基本的理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯表示について</li> <li>・裁縫の実践</li> </ul>		
7	障害者マーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者マークや消費者マークの基本的理解</li> </ul>		
8	在宅介護と生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅ケアにおける支援</li> </ul>		
9	学力評価	学力評価		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
* 参考文献については、その都度提示		期末試験 出席態度	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域フィールドワークⅠ		介護福祉科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	山崎 敏（実務経験有）
授業の概要				
近年の学生に多く見られる他者に伝える技術を、自らが選んだ課題において学び、調べ、まとめる中で身につけていく。その際、地域社会にそのフィールドにおき、地域と個人、地域と福祉の関係性を体系的に学んでいく。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査に基づいて地域における福祉に関する課題に気づき、解決策を考察することができる</li> <li>・研究した調査資料をまとめ、他者に伝えることができる</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	地域フィールドワークとは	地域とは何か、地域の役割を知る【講義】		
2	ボランティアとは何か、ボランティアで学ぶこと	ボランティアの種類、ボランティアで学べること【講義】		
3	施設ボランティアの説明とグループ毎の目標設定	ボランティア実施の内容、グループでの目標を決める【講義・演習】		
4	ボランティアでの注意	ボランティアする上での注意すべきこと【講義】		
5	地域創生	地域創生について		
6	地域福祉のしくみ	地域福祉の重要性		
7	地域における課題点	地域における課題点		
8	地域における課題点	グループでの感想や反省のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・参考文献：藤田久美編著『大学生のためのボランティア活動ハンドブック』ふくろう出版 渡邊敏文著『地域福祉における住民参加の検証』相川書房		最終課題 授業態度	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
国家試験対策講座 I		介護福祉科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山崎 敏 (実務経験有)

授業の概要

介護福祉士国家試験の合格圏内に入る学力を身につける  
学生同士が学びあう姿勢を育てる

授業終了時の到達目標

1. 問題文の中にある言葉の意味を理解し、問題の意図を読み取ることができる
2. 問題を解くことを通して、介護福祉士としての基礎的知識を再確認することができる
3. 学生同士がお互い教えあい学びあい成長する精神を身につける

回	テーマ	内容
1	国家試験受験について	講義・演習 国家試験の出題基準・合格基準についてオリエンテーション 解き方・勉強の仕方についてオリエンテーション
2	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する
3	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する
4	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する
5	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する
6	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する
7	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する
8	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する
9	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する
10	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する
11	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する
12	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する
13	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する

回	テ ー マ	内 容		
14	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する		
15	国家試験過去問 過去模試 模擬試験	講義・演習 問題を解き、選択肢の根拠を理解する		
16	学力評価	学力評価		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
※参考文献・問題についてその都度提示		期末テスト 確認テスト 授業態度	50.0% 40.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護の基本A		介護福祉科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	必須	木村 昌稔（実務経験有）
授業の概要				
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。				
授業終了時の到達目標				
①介護の概念や定義、時代背景から考える介護問題を理解することができる				
②介護を必要とする人の生活や生活歴、時代背景をイメージし、その人らしい暮らしや生活の背景を考えることができる				
③尊厳を支える介護福祉の観点を理解できる				
回	テーマ	内 容		
1	介護の成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化と介護福祉の歴史</li> <li>・制度化以前の介護</li> </ul>		
2	介護の概念の変遷	1970年代—介護サービスの量的拡充が図られる		
3	介護の概念の変遷	1980年代—介護サービスの量的向上が図られる		
4	介護の概念の変遷	1990年代—介護実践における基本的な概念が整理される		
5	介護の概念の変遷	2000年以降—今日の介護サービスの基本的枠組みが整備さえ、介護概念が拡充する		
6	介護の概念の変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、対応が必要な介護問題を考えてみる（グループワーク）</li> </ul>		
7	介護福祉の基本理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士の理念とは</li> </ul>		
8	介護福祉の基本理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尊厳を支える介護（ノーマライゼーション、QOL）</li> </ul>		
9	介護福祉の基本理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立を支える介護（自立支援、利用者主体）</li> </ul>		
10	介護福祉の基本理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尊厳を支える介護（グループワーク）</li> </ul>		
11	介護福祉の基本理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者主体の自立を支えるために必要な自己決定（グループワーク）</li> </ul>		
12	介護福祉士の活動の場と役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム</li> </ul>		
13	介護福祉士の活動の場と役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア・人生最終段階の支援・災害時におけるケア</li> </ul>		
14	介護福祉士の活動の場と役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士の活動する場と役割（グループワーク）</li> </ul>		
15	社会福祉士及び介護福祉士法	「社会福祉士及び介護福祉士法」（定義、義務、名称独占、登録のしくみ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士資格取得者の状況</li> </ul>		



回	テーマ	内 容		
16	社会福祉士及び介護福祉士法	「社会福祉士及び介護福祉士法」(定義、義務、名称独占、登録のしくみ)		
17	社会福祉士及び介護福祉士法	・心身の状況に応じた介護を考える(グループワーク)		
18	社会福祉士及び介護福祉士法	・介護福祉士の義務規定(グループワーク)		
19	社会福祉士及び介護福祉士法	・介護福祉士の義務規定(グループワーク)		
20	社会福祉士及び介護福祉士法	・介護福祉士の義務規定(グループワーク)		
21	自立に向けた介護	・介護福祉における自立支援の意義		
22	自立に向けた介護	・生活意欲と活動と介護予防		
23	自立に向けた介護	・リハビリテーションと介護福祉		
24	自立に向けた介護	・就労支援と介護福祉		
25	自立に向けた介護	・家族、地域との関わりと福祉のまちづくり		
26	介護福祉士養成カリキュラムの変遷	・介護ニーズの変化と、介護福祉士に求められる役割を理解する		
27	介護福祉士養成カリキュラムの変遷	・求められる介護福祉士像を理解する		
28	介護福祉士を支える団体	・専門的な技術・知識を高める障害研修や、各学会の活動について理解する		
29	自立支援	・様々な場面における自立支援		
30	自立支援	・様々な場面における自律支援		
31	学力評価	学力評価		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」 中央法規出版  *参考文献については、その都度提示		期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション技術B		介護福祉科/2年	2024/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	木村 昌稔(実務経験有)
授業の概要				
コミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、介護におけるチームのコミュニケーションについて情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を習得する				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するための基本的な技術が身につく</li> <li>・介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や、情報の管理について理解できる</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	介護における記録とは	介護記録の意義、目的、基本的な書き方 【講義】		
2	介護施設におけるレクリエーション	計画書の作成 【演習】		
3	介護施設におけるレクリエーション	計画書の修正、レクリエーション準備 【演習】		
4	介護施設におけるレクリエーション	実習施設で行うレクリエーション計画の実施 【演習】		
5	介護施設におけるレクリエーション	実習施設で行うレクリエーション計画の実施 【演習】		
6	介護施設におけるレクリエーション	実習施設で行うレクリエーション計画の実施 【演習】		
7	介護施設におけるレクリエーション	実習施設で行うレクリエーション計画の実施 【演習】		
8	介護施設におけるレクリエーション	振り返り、実習で行うレクリエーション計画書作成 【演習・講義】		
9	学力評価	学力評価		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術」 中央法規出版		期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	
*参考文献については、その都度提示				

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術 I-2		介護福祉科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	布谷 陽子 (実務経験有)
授業の概要				
<p>食事の意義・目的を知り、栄養の基礎的知識を習得する。  介護食の実際を学習し、食事の形状や食感を体験、食事形態の意義・目的を学習する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①食事の意義・目的を理解する  ②栄養の基礎的知識が分かる  ③身体状況に応じた食事形態の意義・目的を理解する</p>				
回	テーマ	内容		
1	自立に向けた家事の介護	講義		
2	食事の意義と目的	講義		
3	栄養に関する基礎知識	講義		
4	栄養に関する基礎知識 (演習)	講義・スライド・演習		
5	おいしく楽しい食事にするための留意点	講義		
6	おいしく楽しい食事にするための留意点 (演習)	講義・スライド・演習		
7	おいしく楽しい食事にするための留意点 (演習)	講義・スライド・演習		
8	介護食の基礎知識	講義		
9	介護食の基礎知識 (演習)	講義・スライド・演習		
10	介護食の基礎知識 (演習)	講義・スライド・演習		
11	自立に向けた家事の介護	講義		
12	自立に向けた家事の介護 (演習)	講義・スライド・演習		
13	安全で的確な食事介助の方法	演習		
14	安全で的確な食事介助の方法	演習		
15	安全で的確な食事介助の方法	演習		
16	学力評価	学力評価		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版 *参考文献については、その都度提示		期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術Ⅱ-1		介護福祉科/1年	2024/前期	講義・実技
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	木村 昌稔（実務経験有）
授業の概要				
<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を実践する対象、場によらず、さまざまな場面に必要とされる介護の基礎的な知識</li> <li>・技術を実践することができる</li> <li>・対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開ができる</li> <li>・学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うことができる</li> </ul>				
	テーマ	内容		
1	介護福祉士が行う生活支援の意義・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援の考え方</li> <li>・生活の支援、自己決定の支援、楽しみや生きがいの支援</li> </ul>		
2	生活支援と介護過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援に活かすICF・活動・参加することの意味と価値</li> <li>・根拠に基づく生活支援技術</li> </ul>		
3	生活支援に共通する技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明・同意、観察、準備、評価</li> <li>・安全な介護</li> </ul>		
4	多職種との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援とチームアプローチ</li> </ul>		
5	自立に向けた居住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住環境の社会・文化的、心理的、身体的意義と目的</li> </ul>		
6	自立に向けた居住環境の整備の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住み慣れた地域での生活の継続</li> <li>・安全で住み心地のよい生活の場</li> <li>・快適な室内環境の整備</li> </ul>		
7	居住環境整備の基本となる知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅改修</li> <li>・バリアフリー・ユニバーサルデザイン</li> </ul>		
8	対象者の状態・状況に応じた留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患、内部障害がある人の留意点</li> <li>・集団生活における工夫と留意点</li> <li>・在宅生活における工夫と留意点（家族、近隣との関係、多様な暮らし）</li> </ul>		
9	移動の意義と目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動の心理的、身体的、社会、分化的意義と目的</li> </ul>		
10	自立に向けた移動介助の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動への動機づけ</li> <li>・自由な移動を支える介護</li> <li>・福祉用具の種類と活用</li> </ul>		
11	移動・移乗の介護の基本となる知識と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポディーメカニクス</li> <li>・車椅子の介助・体験</li> <li>・歩行の介助</li> </ul>		
12	移動・移乗の介護の基本となる知識と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢の保持（ポジショニング、シーティング）</li> <li>・基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり）</li> </ul>		
13	ベッドメイキング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVD</li> <li>・ベッドメイキングの実践</li> </ul>		
14	自立に向けた生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術の振り返り</li> </ul>		
15	技術評価	技術評価		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」 中央法規出版 7「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版		技術評価 授業態度	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護過程 1		介護福祉科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山崎 敏 (実務経験有)
授業の概要				
介護過程の意義・目的および介護過程の展開の一連のプロセスに関する基礎的理解				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の意義、取り組みの背景について理解ができる</li> <li>・介護過程において介護福祉士の役割を意識することができる</li> <li>・利用者のそれぞれの心身の状態に応じたニーズの理解ができる</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	介護過程とは	誕生日を贈る場合から考える 【講義・演習】		
2	介護過程の取り組みの背景	介護観の変化・利用者像の変化・概念の変化 【講義】		
3	介護職に求められる役割	介護福祉士が目指すこと 【講義】		
4	介護過程の始まりは良い人間関係	介護過程において信頼関係の重要性 【講義】		
5	秘密の大切さ、意外な一面	すべてを知ることが良いことではない・ジョハリの窓 【講義】		
6	問題解決思考とは	原因分析と解決法 【講義】		
7	情報収集の手段	事実を推測する材料・情報源 【講義】		
8	ケアマネジメントと介護過程の整理	ケアプランと個別援助計画との違い 【講義】		
9	介護福祉士が目指すこと	介護福祉士の仕事・特徴 【講義】		
10	利用者共通の7つの視点	【講義】		
11	介護過程の実践的理解	介護過程の各段階 【講義】		
12	情報収集とニーズの整理	情報収集の必要性 【講義】		
13	情報の分析、ニーズの把握	ニーズとは何か・情報から読み取るニーズ 【講義】		
14	見通しをたてる	ニーズから解釈してみる 【講義】		
15	ICFの視点	ICFの活用		
16	学力評価	学力評価		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 9「介護過程」 中央法規出版  *参考文献「事例で読み解く介護過程の展開」中央法規出版		期末試験 授業態度	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護総合演習 1		介護福祉科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山崎 敏（実務経験有）

授業の概要

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う

授業終了時の到達目標

・介護実習の効果を上げるため、事前に実習する施設の役割やあり方など介護保険上に基づいた理解ができる

回	テーマ	内容
1	介護総合演習とは	介護総合演習で何を学ぶか、総合演習の位置づけ【講義】
2	介護実習での指導、他科目での学びの統合化	総合演習における他の科目での必要性を知る【講義】
3	多職種協働の意味と重要性の意識化	他職種連携と協働について【講義】
4	介護実習がなぜ必要なのか、実習のおもな流れ	介護実習の必要性、学ぶべきこと【講義】
5	実習 I の目的とおもな実習内容	実習 I での学び、実習内容【講義】
6	居宅介護サービスについて	デイサービス【講義】
7	居宅介護サービスについて	グループホーム【講義】
8	居宅介護サービスについて	小規模多機能型居宅介護【講義】
9	学習到達状況の把握と個別指導、養成教育全体の総まとめ	実習における目標、実習において留意すべき点【講義】
10	施設におけるレクリエーションを知る	レクリエーション体験（利用者として）【演習】
11	施設におけるレクリエーションを知る	レクリエーション体験（利用者として）【演習】
12	学習到達状況の把握と個別指導、養成教育全体の総まとめ	実習における目標、学習到達をみる【講義】
13	実習ファイル作成	事前学習や個人目標設定【演習】
14	実習振り返り・お礼状作成	実習で学んだことを自分自身で振り返る・目標を達成したか・施設へのお礼状作成【演習】
15	実習振り返り	個人での振り返りをグループワークで検討【演習】

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 10「生活演習・介護実習」 中央法規出版	期末試験 出席率	80.0% 20.0%	
*参考文献については、その都度提示			

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
認知症の理解Ⅰ		介護福祉科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	山本 美佳代（実務経験有）
授業の概要				
認知症の人の心理・身体機能・社会面に関する基礎的な知識を習得し、認知症の人を中心にすえ、本人や家族・地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を学ぶ				
授業終了時の到達目標				
1. 認知症ケアの歴史・現状と今後の課題について理解することができる 2. 認知症による障害・原因となる疾患と検査や治療について理解できる 3. 認知症の特徴的な心理と行動について理解することができる 4. 認知症と間違いやすい症状について理解することができる 5. 機能の変化と日常生活への影響について理解することができる 6. 認知症の人の家族への支援・地域のサポート体制について理解することができる				
回	テーマ	内容		
1	認知症の基礎的理解① 認知症ケアの歴史と理念	講義 オリエンテーション 歴史的背景とケアの理念・権利擁護 認知症の高齢者数の推移と支援対策 【DVD視聴】		
2	認知症の基礎的理解② 認知症とは何か	講義 認知症の定義・診断基準・特徴と進行 認知症の人の心理（パーソンセンタード・ケア） 【DVD視聴】		
3	認知症の基礎的理解③ 脳のしくみ（1）	講義 脳の構造と機能 記憶のしくみと知能（流動性知能と結晶性知能） 認知症が生じるしくみと症状		
4	認知症の基礎的理解④ 脳のしくみ（2）	講義 認知症・せん妄・うつとの違い 軽度認知症（MCI）とは		
5	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 中核症状の理解 加齢にもの忘れと認知症の記憶障害の違い 中核症状：記憶障害（記憶の種類と加齢による変化）		
6	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 中核症状：見当識障害・遂行機能障害 社会的認知障害 高次脳機能障害（失語失認失行）		
7	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 BPSDの理解 BPSDとは何か BPSDを誘発する原因と対応		
8	認知症の人へのケア	講義 代表的なBPSDと対処法 徘徊・物取られ妄想・もの集め・暴言暴力		
9	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 生活障害の理解 認知症が生活に与える影響（ADL・IADL） 認知症の診断基準 認知症の評価スケール HDS-R・MMSE・CDR・FAST・日常生活自立度判定基準		
10	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 アルツハイマー型認知症 病態・症状・経過・生活障害とケア 【DVD視聴】 【事例演習】対応をグループで考え実際に実践発表 もの取られ妄想・帰宅欲求・食事要求・若返り		

回	テーマ	内 容		
11	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 血管性認知症 病態・症状・経過・生活障害とケア		
12	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 レビー小体型認知症 病態・症状・経過・生活障害とケア 【DVD視聴】 【事例演習】対応をグループで考え実際に実践発表 幻視・パーキンソン症状・自律神経失調		
13	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 前頭側頭型認知症（ピック病） 病態・症状・経過・生活障害とケア 【事例演習】対応をグループで考え実際に実践発表 常同行動・万引き		
14	認知症の症状・診断・治療・予防	講義 若年性認知症 病態・症状・経過・生活障害とケア・社会支援の体勢 治療可能な認知症 正常圧水頭症・慢性硬膜下けしゅ その他 クロイツフェルト・ヤコブ病 【DVD視聴】		
15	認知症の症状・診断・治療・予防⑦ 認知症の治療薬と予防	講義 薬の作用と副作用 発症リスクを高める要因と予防		
	期末試験	学力評価試験		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	テキスト 最新 介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」 中央法規出版 *参考文献については、その都度提示	確認テスト 期末試験 提出物 授業態度	20.0% 50.0% 20.0% 10.0%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こころとからだのしくみⅠ		介護福祉科/1年	2024/前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	山本 美佳代 (実務経験有)
授業の概要				
介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理・人体の構造や機能を理解する。その上で生活支援に必要な安全への留意点、心理面への配慮、観察力判断力の基盤となる知識について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
1. 人間の身体の構造や生理機能の基礎的な知識を理解することができる				
2. 介護を必要とする人の生活支援を行うために必要な身体の動き方のメカニズムを理解することができる				
回	テーマ	内 容		
1	からだのしくみの理解	講義 からだのつくりの理解 細胞・組織・器官 身体各部の名称		
2	からだのしくみの理解	講義 人体の構造と機能 脳・神経系 (神経系のはたらき)		
3	からだのしくみの理解	講義 人体の構造と機能 感覚器系 (視覚・聴覚・皮膚等)		
4	からだのしくみの理解	講義 人体の構造と機能 内臓の名称 (呼吸器・血液循環器)		
5	からだのしくみの理解	講義 人体の構造と機能 内臓の名称 (消化器・泌尿器)		
6	からだのしくみの理解	講義 人体の構造と機能 内臓の名称 (筋・骨格系) 骨関節の動き・筋肉の動き		
7	からだのしくみの理解	講義 人体の構造と機能 内臓の名称 (生殖器・内分泌系)		
8	生命を維持するしくみ	講義 関連する役割と薬の知識 自律神経・ホメオスタシス・バイタルサイン 介護福祉職に必要な薬の知識		
	試験・解説	学力評価試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・テキスト 最新介護福祉士養成講座11 『こころとからだのしくみ』中央法規		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医療的ケアI		介護福祉科/1年	2024/後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	8回	15時間	必須	山本 美佳代(実務経験有) 【実務経験】 病院・福祉施設
授業の概要				
医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう必要な知識・技術を習得する				
授業終了時の到達目標				
1. 介護福祉士が医行為の一部を行うことになった制度の背景を理解することができる 2. 医療的ケアの倫理上の留意点・清潔保持と感染予防について理解することができる 3. 応急手当・救急蘇生法といった安全な療養生活のための基礎知識を理解することができる 4. 健康状態の把握・急変状態の対応について理解することができる				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 人間と社会 保健医療制度とチーム医療	講義	医療的ケアの背景・制度 医行為とは何か・介護福祉士の実施要件 チーム医療と介護職員との連携 その他制度(介護保険法・障害者総合支援法他)	
2	安全な療養生活①	講義 演習	医療的ケアの安全な実施 リスクマネジメント(ヒヤリハット・アクシデント) 事故報告書の作成(グループワーク)	
3	安全な療養生活② 救急蘇生法	講義	救急蘇生の重要性・手順の留意点 【DVD視聴】AED使用の一次救命	
4	安全な療養生活③ 応急手当	講義	応急手当の種類と方法	
5	清潔保持と感染予防① 感染管理と予防 スタンダードプリコーション	講義 演習	感染が成立するしくみ・感染の種類 スタンダードプリコーションの意味と重要性 【DVD視聴】衛生学的手洗い 衛生学的手洗い	
6	清潔保持と感染予防② 滅菌と消毒 職員の感染予防	講義 演習	滅菌と消毒の違い・薬剤 職員の感染予防・健康管理(持込・持出) 【DVD視聴】滅菌手袋の装着方法 滅菌手袋の装着	
7	健康状態の把握① 健康状態を把握する項目(心身) 医療行為ではないと考えられる行為	講義	バイタルサインの種類と正常値 医療職へ報告が必要な状態・急変状態とは 医療行為ではないと考えられる行為とは	
8	健康状態の把握② バイタルサイン	演習	バイタルサイン測定(グループワーク)	
	期末試験	学力評価試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 最新 介護福祉士養成講座 15「医療的ケア」 中央法規出版 *参考文献については、その都度提示		確認テスト 期末試験 提出物 授業態度	20.0% 50.0% 20.0% 10.0%	